

当園では子供たちの健やかな成長と安全確保、また、職員一人一人の教育・保育の質の向上を図るためにチェックリストを活用し、良かった点や改善点などを再確認しております。

今後益々地域に根ざした施設となるべく、皆様に安心して預けるような環境を整え、子どもたちのために職員一同努力していきたいと思っております。

### 1. 評価項目の達成及び改善対策

評価項目	改善対策
<p>保育環境の整備について</p> <p>室内環境の整理整頓を怠ってしまうことがあり、荷物がロッカーの上や、床に出しっぱなし、置きっぱなしにしてしまい、必要な時に使えず困ってしまう事がある。</p>	<p>それぞれが責任を持ち整理整頓をする。更にリーダーが週に1回、各部屋を巡回し声をかける事とする。また、共同で使用する教材室や、紙のアパート等出した人、使用した人は片付ける事を心がけ徹底する。</p>
<p>危機管理について</p> <p>危機管理のマニュアルの見直しを行い、子ども達が安全で安心な生活が送れるよう努めていく。</p> <p>また避難訓練などを通し、子ども達自身の危機管理能力の向上に繋がるような保育を心がけるようにする。</p> <p>ケガ対策について</p> <p>事故は大人の不注意で起こることが多いため施設内外の設備、固定遊具などの点検後の報告を理解し保育環境を整えるようにする。</p>	<p>危機管理マニュアルを見直し、職員間で訓練などについてしっかりと話し合い、保育者一人ひとりが理解できるよう見通しをたてた会議を行った。子ども達自身に自らの生命を守る力がつくことをねらいとした指導計画を立て実践した。</p> <p>事故やけがなどが発生した場合は、「ヒヤリハット報告書」や「事故報告書」に記入している。そして毎日のミーティングで報告して情報共有を行うとともに改善策を検討し、再発防止に取り組んでいる。</p>
<p>個別配慮児保育の対応について</p> <p>個別配慮児の特性に合わせた教育・保育計画の立案を、一人ひとりの社会性や行事の特性等を把握していたつもりだが、理解するまでなかなか容易でなかったし、様々な課題が山積みになり関わりをもつには時間がかかった。</p>	<p>個別配慮の必要な子どもに対して、研修に参加するよう努めたり、医療機関や専門機関から助言を受け保育を行った。更に園全体の話し合いの中で、注意点や対応ポイントを他の職員とも共通理解し関わっていく必要がある。また本児にとって一番良い関わり方を保護者にも理解をしてもらうよう取り組んでいる。</p>
<p>職場内のかかわりについて</p> <p>職員間の報告・相談・連絡の徹底をきちんと行う。また保護者からの伝達事項などを確実に引き継ぐことの大切さを念頭に置くことを共通理解しているのだが、打ち合わせの時間を上手に作り出せず、予想以上に職員間の連携を取る難しさや会議内容や報告の共通理解においても課題を感じる。</p>	<p>職員間の確認の場を以上児・未満児のリーダーがしっかり把握し、メモした事に責任もって、自分の言葉で確実に伝える。</p> <p>また会議中には積極的に質問・発言をするよう促した。子どものお手本となるように、ミスをした場合は素直に謝り、プラス思考で考え・行動できるように自分を磨く。</p>
<p>小学校との連携や就学に対する指導計画について</p> <p>就学に向けてのアプローチカリキュラムをもとに、今までの経験や小学校との意見交換での課題を踏まえ、子ども達が交流する中で、小学校へ行きたいという意欲を持たせた。</p>	<p>幼保小連携事業では小学校継続に向けて近郊の学校交流会や勉強会に積極的に参加し、今の現状・課題について意見交換を行い、アプローチカリキュラム作成を基に、今後も繋がりを大切にしながら連携を取って行きたい。</p>

## 自己点検の分析

### ① 食物アレルギー

医師からの診断書の提出を受けて除去食を提出していますが、誕生会のケーキやおかしの配慮も怠らない。ただし確保できない場合はきちんと保護者につたえる。その為にも食物アレルギーの理解を深めるための職員一人ひとりが食物アレルギー児への対応を共通理解し、安全で安心な食が提供できるよう努めていく。アナフィラキシーショックを起こす可能性のある場合はエピペンを毎日持参してもらう。

### ② 苦情対応

意見箱を設置するだけでなく、連絡帳でのやり取りや直接対話から意見や要望をくみ取る事を大切にしている。苦情が寄せられた場合には、すべてそのまま管理職に報告する。自分がもとではないミスであっても、丁寧にお詫びをする気持ちを忘れてはならない。そして相手のミス、手落ちを責めてはいけない事を共通理解する。最終的に保護者に回答したうえで苦情報告書を作成し、苦情内容とその後の対応方法について記録に残し職員間で共有して今後に活かしておく。

### ③ 安全・衛生管理

日常における安全・衛生管理には十分に注意を払っているつもりでいたが、年齢が低い子どもが手にするもの全ての消毒を職員全員が意識し実施する必要がある。

これまでも、「AEDの設置」「空気清浄機の設置」などの実施、また各種訓練を実施し、意識・対応の向上を図っていたが、人に言われて点検・実施するのではなく、保育者自身一人ひとりの自覚が必要である。その為には安全・衛生に関して、最も優先すべき課題として、今後もできる限りの充実を図ることとする。

また、「監視カメラ」の導入と共に園内外の状況を事務室で常時捉えている。更に、外部からの不審者の侵入には男性職員の見回りなども対応している。

### ④ 保護者との関わり

保護者と関わる上で一番重要なことは、コミュニケーションを取るということを会議で話し合っています。保護者に連絡を取ったり、送迎時にその日の様子を知らせたりすることの必要性を知る。ただ、個人的な見解で対応せず園の方針に従い、保護者を理解し思いに寄り添い傾聴する。決して礼儀を忘れない事を頭の中に入れる。子どもの安全を第一に考えていますが、どんな小さなことでも対応の良し悪しで保護者に不信感を与えないよう、きちんと信頼関係を図っていく。



# 自己評価・自己点検のまとめ

平成30年度

【平成30年4月1日から平成31年3月31日まで】

学校法人 鳳鳴学園  
認定こども園 高館幼稚園